神奈川国際水産研修センター

概　　要

平成4年度

国際協力事業団

神奈川国際水産研修センター

JICA
000
36
TKC
LIBRARY

JICA LIBRARY
1099933(2)
24131
国際協力事業団
24131

目　次

Ⅰ　国際協力事業団の概要 …… 1
Ⅱ　研修員受入れ事業の概要 …… 1
Ⅲ　神奈川国際水産研修センターの概要 …… 2
1. 沿　革 …… 2
2. 施設概要 …… 2
3. 組織と業務 …… 3
① 組　織 …… 3
② 業　務 …… 3
4. 平成４年度事業計画 …… 4
Ⅳ　事業の概要 …… 6
1. 集団コース概要 …… 6
2. 個別研修員の受入れ …… 8
3. 日本語研修 …… 8
4. 福利厚生・地域交流等 …… 8
Ⅴ　研修員受入れ実績 …… 9
1. 平成３年度コース別研修員名簿 …… 9
2. 平成３年度個別研修員受入れ実績 …… 15
3. 地域別年度別研修員受入れ実績 …… 17
4. コース別年度別研修員受入れ実績 …… 17
（参考）個別コース研修員受入れ実績 …… 17
5. 国別研修員受入れ実績 …… 18
6. 地域別研修員受入れ状況 …… 19
参考資料
1. 国際協力事業団認可予算の推移 …… 20
2. わが国のODA事業予算（政府全体） …… 21
3. 神奈川国際水産研修センター平面図 …… 22
4. 神奈川国際水産研修センター案内図 …… 23

Ⅰ 国際協力事業団の概要

国際協力事業団（英文名－Japan International Cooperation Agency：略称JICA）は、開発途上にある国々の経済、社会の発展に寄与し、国際協力の促進を図るため、政府ベースの多岐に亘る国際協力事業を、一元的に実施するために昭和４９年８月１日、国際協力事業団法（昭和４９年法律第６２号）に基づいて設立された特殊法人です。

当事業団は、ODA（政府開発援助）の内の二国間贈与の部門を主体的に担っており、開発途上国の経済および社会の発展に寄与するため、次の事業を実施しています。

1. **政府ベースによる技術協力**
   - ① 研修員受入事業
   - ② 専門家派遣事業
   - ③ 機材供与事業
   - ④ プロジェクト方式技術協力事業（前述の研修員受入、専門家派遣、機材供与の３事業を一つのプロジェクトの中に有機的に組合せた協力）
   - ⑤ 開発調査事業
   - ⑥ その他の技術協力関係事業（通産省からの委託による資源開発協力調査等、外務大臣の認可を受けて行う協力）
2. **青年海外協力隊事業**
3. **技術協力のための人材の養成及び確保**
4. **無償資金協力促進事業**
5. **開発協力事業**
6. **移住事業**

Ⅱ 研修員受入れ事業の概要

開発途上国の中級及び高級技術者を、その国政府の要請によりわが国に受入れ、各分野の技術の研修、新知識の習得あるいは再訓練を行い、開発途上国の経済的、社会的発展に寄与し、併せて日本の産業、文化を紹介し彼我の友好親善に役立てることを目的としています。これらの受入に要する費用は、原則としてわが国が負担します。研修の方式は、わが国であらかじめ設定した研修プログラムに沿って各国からの参加希望者をつのる集団研修と各国の独自の要請に基づき研修させる個別研修に分けられます。研修員の資格は、研修コースの内容によって異なりますが、各国において経済・社会開発の中心となる人々を対象としているため、政府機関の中堅職員が多くなっています。

受入研修員は、セミナー参加者、視察・見学者、研究者、技術・技能研修者等に大別され、事業団の研修機関、政府の試験研究機関、大学、民間の企業、訓練所等の各機関において研修プログラムに沿って研修を行っています。

当事業団は、これら研修の計画立案、その他研修管理全般の仕事を受けもつとともに、国際研修センターを設置・運営し、更にこれらの研修管理の一環として研修員に対する日本語教育の実施、帰国研修員へのアフターケア活動等を進めています。

開発途上国から「国づくり」の核となる技術者や行政官等を研修のために受入れる研修員受入れ業務は、技術協力の主要な柱の一つであり、研修員は、それぞれの国の国づくりに必要な技術を学び、自国の経済、社会開発において積極的な役割を果すばかりでなく、日本人との交流を通じて日本の風俗・伝統・文化に親しみ、充実した成果をもって母国へ帰り、日本との友好の橋渡しとなることが大いに期待されます。

Ⅲ 神奈川国際水産研修センターの概要

1. 沿　革

神奈川国際水産研修センター（英文名－Kanagawa International Fisheies Training Centre：略称KIFTC）は、昭和３６年４月三浦市諏訪町に当事業団の前身の一つであった（社）アジア協会設立の三崎国際水産研修会館として発足し、昭和４９年４月に神奈川国際水産研修センターと改称し現在地に移転・拡充されました。

当センターは設立当初より、水産大学、水産試験場、地元の漁業協同組合等の協力を得て、当センターにおいて研修員に対し直接指導を行う体制をとり、水産の技術指導施設と宿泊機能を兼ね備えた、日本で唯一の国際水産研修センターであります。

2. 施設概要

① 所在地：神奈川県横須賀市長井５－２５－１　〒238－03

TEL.0468－57－2251　FAX.0468－57－2254

② 建物規模

敷地面積：3,069㎡　建築面積：1,196㎡

延床面積：2,729㎡　構　造：鉄筋コンクリート４階建

③ 主要施設

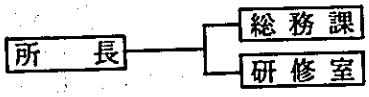
ア．管理施設（事務室、会議室、講堂）

イ．宿泊施設（シングルルーム３３室、和室１室、食堂、ロビー、ラウンジ）

ウ．研修施設（研修室３室、漁具製作室、養殖実験実習棟、エンジン実習室、回流水槽室、実習船２、展示ホール、図書資料室）

3. 組織と業務

① 組　織



事務分掌

総務課 …… 研修員の宿泊管理、研修施設の運営管理、経理・庶務
研修員の福利厚生・生活指導

研修室 …… 研修計画・実施・評価等の業務、実習船・研修設備の管理
日本語研修、研修監理員に関する業務

② 業　務

当センターでは次の業務を実施しています。

ア．水産技術研修

年間６つの集団研修コース「沿岸漁業技術コース（期間8.5ケ月）、漁業協同組合コース（期間5.5ケ月）、水産食品加工コース（期間5.5ケ月）、漁具漁法学コース（期間2.5ケ月）、養殖一般コース（期間5.5ケ月）、小型漁船の船体・機関保守コース（期間5.5ケ月）」を直轄で実施しており、宿泊棟、実習船、講義・実習施設を有し、宿泊から技術研修まで当センターで一貫して行っています。併せて、関係機関の協力を得て個別研修コースも実施しています。

イ．オリエンテーション

日本における日常生活を快適に過ごし実りある研修とするため、研修に当っての心得や日常生活に必要な事項等についてのオリエンテーションを来所直後１週間にわたって行います。

ウ．日本語教育

当センターでは日本語教育を全ての研修員に対して義務づけて実施しています。目標を日常生活の助けとなる程度の会話の習得としていますが、希望者にはひらがな、カタカナ及び簡単な漢字の読み書きも教えることにしています。

エ．健康管理

研修員が健康で所期の研修成果をあげるよう地元医療機関と連携して、研修員の健康管理には万全を期しています。

オ．文化交流・レクリエーション活動

研修員の明日への活力を養うとともに、日本人との交流を通じて相互の理解を深め、研修生活が快適で思い出深い有意義なものとなるよう各種のパーティー、スポーツ大会の開催、友好団体との交流、地元伝統文化行事への参加、教育現場の見学、有志家庭へのホームビジットなど多彩なプログラムを実施しています。

カ．研修員の生活相談

研修員から寄せられる要望や相談事の助言・指導に当っています。

キ．施設の運営・管理

安全でより快適な環境の維持に努めています。

ク．青年海外協力隊派遣前技術補完研修

水産部門（特に沿岸漁業・漁具漁法分野）の協力隊員に対し、３～４ケ月間の派遣前技術補完研修を実施しています。

4. 平成４年度事業計画

平成４年度は前年度からの継続２コース（１６名）を含め、８集団コースと40～50名の個別コースを計画しています。（詳細は別表のとおり）

また、平成３年度兵庫インターナショナルセンターから移管した水産食品加工コースのカリキュラムを改善し、5.5ケ月の期間で実施することになりました。

別　表

平成４年度研修コース実施計画表

平成４年４月
神奈川国際水産研修センター

No.	コース名	人数	月数	始期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	終期	人月	回数	関係省庁	主たる受入先研修機関
	（継続）																				
1	養殖一般	10	2.5	92. 1. 7													92. 6.23	25.0	13	JICA	神奈川国際水産研修センター
2	小型漁船の船体・機関保守	6	2.5	92. 1. 7													92. 6.23	15.0	10	〃	〃
	小計 (A)	16	－	－													－	40.0	－	－	
	（新規）																				
3	沿岸漁業技術	12	8.5	92. 4.17													92.12.14	102.0	3	JICA	神奈川国際水産研修センター
4	漁業協同組合	8	5.5	92. 6.30													92.12.14	44.0	19	〃	〃
5	水産食品加工	7	5.5	92. 6.30													92.12.14	38.5	19	〃	〃
6	漁具漁法学	7	2.5	93. 1. 5													93. 3.19	17.5	3	〃	〃
7	養殖一般	9	3.0	93. 1. 5													93. 6.22	27.0	14	〃	〃
8	小型漁船の船体・機関保守	7	3.0	93. 1. 5													93. 6.22	21.0	11	〃	〃
	個別（単発）・（c/p）等	46	1.5	－													－	69.0	－	JICA	神奈川国際水産研修センター
	小計 (B)	96	－	－													－	319.0	－	－	
	合計(A)+(B)	112	－	－													－	359.0	－	－	

Ⅳ 事業の概要

1. 集団コース概要

（1）沿岸漁業技術コース

〔Coastal Fishing Technology〕

本コースは日本の沿岸漁業の代表的な漁具漁法に関する基礎技術と知識を、特に実技に重点を置いて修得することを目的とし、実習船による海上実習及び漁具製作実習を中心とした研修を行っています。

特に、管理型漁法の一つとして小型定置網について設置、操業、撤去と一貫した実習を行うとともに巾着網操業やカゴ漁業は漁船での乗船見学実習も含まれています。

当コースの対象者は、発展途上国で漁具漁法分野の教育、指導、普及及び研究などの業務に従事している人々であり、参加する研修員には、強靭な肉体と旺盛なる学習意欲が望まれるコースです。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 小型定置網漁業
b. 刺網漁業
c. 小型トロール網漁業
d. 巾着網漁業
e. 延縄・立縄漁業
f. 各種釣漁業
g. モデル網水槽実験
h. 各種漁具製作実習
i. 漁業関連一般講義

（2）漁業協同組合コース

〔Fishery Cooperatives〕

本コースは発展途上国の漁業協同組合の指導者、及びそれを支援する行政の担当者を対象として、自国の現状に適合した漁業協同組合の組織化、適正な運営管理を行い得る能力を修得させることを目的としています。

研修は講義と視察により、日本の漁業協同組合のシステムを理解し、討論・レポート作成を通じ、自国の漁業協同組合の問題点と改善策を研究します。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 協同組合原則
b. 漁協の組織・運営
c. 信用事業
d. 販売事業
e. 漁業管理
f. 漁業法・水協法
g. 会計・簿記
h. 水産訓練普及論
i. 水産行政・政策

（3）水産食品加工コース

〔Marine Food Processing and Technology〕

本コースは、水産資源の有効活用及び水産食品の品質・衛生管理上重要な、水産食品科学及び加工技術を習得し、自国の水産食品産業に貢献できる中堅技術者・研究者の育成を目的としています。

研修はセンター内での講義と実習のほか、実際の製造工場や検査機関での実務研修と見学も多く含まれ、理論のみならず実践的な技術の習得が図られています。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 水産加工原料
b. 水産食品化学
c. 水産製造学
d. 魚介類の微生物検査
e. 食品の機器分析
f. 練製品製造
g. くん製品・調味加工品製造

（4）漁具漁法学コース

〔Fishing Science and Technology〕

本コースは発展途上国において漁業技術の研究、教育及び普及、または漁具の設計・製造に従事している人々を対象として、科学的視点による漁具漁法改良技術を移転し、漁獲効率向上、水産資源管理、環境保全・保護、エネルギー（燃料、資材）の節減等にかなう適正な漁業開発に貢献しうる人材の育成を目的とするものです。

研修はトロールと刺網を教材とした、漁具の設計、製作および操業のそれぞれの段階についての講義・実習と、漁具漁法改良に必要な基礎科学についての講義・実験が設定されています。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 漁具漁法学概論
b. 漁具製作実習
c. 漁具材料学（含実験）
d. 魚群行動学（含実験）
e. トロール漁業論
f. 海上漁業実習
g. 漁具物理学（含実験）
h. 漁船設計論
i. 刺網漁業論
j. 漁獲選択性理論
k. 漁業計器論

センターの研修設備として、実習船と回流水槽があり、刺網漁業実習、トロール模型網の流水中の抵抗・形状測定にそれぞれ使用されています。

（5）養殖一般コース

〔General Aquaculture〕

本コースは開発途上国における水産増養殖分野の研究者及び指導者に対し、当該分野の専門知識及び技術を広く修得させ、その上で、自国の養殖環境に適合した対象種の開発や、それら一連の養殖方式の体系化等、当該分野の開発に技術的見地から貢献でき得る能力を養うことを目的としています。

研修はセンターにおける講義、実習が主体ですが、現場の技術及びその体制を見聞するため日本各地の試験・研究機関や民間養殖場を見学する研修旅行も実施されます。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 淡水・海水養殖（甲殻類・貝類・藻類養殖を含む）
b. 種苗生産・餌料生物培養
c. 魚類生理学
d. 水族栄養学
e. 魚病学
f. 水質環境
g. 養殖工学

（6）小型漁船の船体・機関保守コース

〔Hull and Engine Maintenance of Small Fishing Boat〕

本コースは発展途上国における沿岸漁業の振興を図る上で、重要な小型漁船の船体および機関の保守・管理に関する基礎的な知識および技術の修得をし、自国における技術普及に貢献できる人材の育成を目的としています。

研修は講義の他に上記の目的にそって造船所での実習やエンジンの分解・組立等の実習を行うので、あらかじめある程度の経験を有する者が研修員として望ましく、また、乗船機関実習等も含め船舶分野での問題解決能力及び技術を体系的に修得させることとしています。

主な研修内容は次のとおりです。

a. 一般漁船構造・船舶設計の基礎
b. FRP漁船構造
c. ディーゼル機関
d. 船外機
e. 舶用補機
f. 冷凍機の保守管理
g. 舶用電機

2. 個別研修員の受入れ

当センターで永年培った受入れノウハウを活かして、個別受入れの拡大を図っております。施設見学を中心とする1日研修から、集団コースに合流させる数ケ月間の研修まで巾広く実施しております。

3. 日本語研修

各集団コースともカリキュラムの前半において、全員を対象に集中講座(午前9時30分～午後4時)を2週間にわたって実施し、その後は夜間講座を週3回(月、水、金)各2時間(夜7時～9時)約10週間にわたって実施します。講座の最終日には日本語発表会を実施します。

4. 福利厚生・地域交流等

今年度は次の事業を実施する計画です。

ア. 国際親善パーティー	1回
イ. 東京ディズニーランド見物	2回
ウ. バレーボール大会	3回
エ. バス旅行	3回
オ. サッカー試合	1回／月
カ. 地元各種団体との懇親会	約10回
キ. ホームビジット及びホームスティ	随時
ク. 映画・VTR鑑賞会	随時

V 研修員受入れ実績

1. 平成3年度コース別研修員名簿

① 沿岸漁業技術コース：平成3年4月～12月

No.	NAME 氏 名	COUNTRY NAME 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 現 職
1	Mr. Joseph Ouake ジョセフ	BENIN ベナン	34	Animal Extension Officer, Ministry of Agriculture 農村開発組合活動省 普及員
2	Mr. Antonio Olinto Avila da Silva アントニオ	BRAZIL ブラジル	27	Fishery Biologist (Pole & Line Fishery Development) Rio de Janeiro Fisheries Institute (FIPERJ) リオ デ ジャネイロ水産研究所 カツオ・マグロ漁業開発担当研究官
3	Mr. Luis Felipe Gomez ルイス	COLOMBIA コロンビア	24	Biologist, (Hatchery Coordinator) IDELPACIFICO IDELPACIFICO水産会社 種苗センター技師
4	Mr. Carlos Jose Penalo Lantigua ペニャロ	DOMINICAN REPUBLIC ドミニカ	31	Counterpart, Fishery Resources Department, Ministry of Agriculture 農務省 水産資源部 (高級専門家C/P)
5	Mr. Manuel Ncogo Obono マヌエル	EQUATORIAL GUINEA 赤道ギニア	31	Chief, Department of Coastal Fisheries, Direction General of Water & Fisheries, Ministry of Agriculture 農業省 水資源・水産局 沿岸漁業課 課長
6	Mr. Meseret Taye Bekele タイエ	ETHIOPIA エチオピア	33	Fisheries Development Supervision & Controll Expert, Fisheries Development Department, Ministry of Agriculture 農業省 水産開発部 水産開発監督官
7	Mr. Erwin Rodolfo Marroquin Guevara エルウィン	GUATEMALA グアテマラ	32	Chief of Fishing Maritime Inspector, DITEPESCA 農牧庁 漁業技術部 主任検査官
8	Mr. Juma bin Mohammed bin Abdulla Al-Mamry ジュマ	OMAN オマーン	29	Research Assistant, Marine Science and Fisheries, Ministry of Agriculture and Fisheries 水産研究所 研究員
9	Mr. Segundo Juan Alzamore Encalada セグンド	PERU ペルー	32	Training Instructor, Paita Fisheries Training Centre, Ministry of Fishery 水産省 パイタ水産研修センター 講師
10	Mr. Nelson B. Bien ネルソン	PHILIPPINES フィリピン	33	Fisheries Technician, Regional Office III, Department of Agriculture 農業省 第三地区事務所 漁業普及員
11	Mr. Ernestino Menezes dos Santos Nascimento エルネスティノ	SAO TOME & PRINCIPE サントメ・プリンシペ	28	Fisheries Inspector, Industrial Fisheries Division, Direction of Fisheries 農業漁業省 漁業局 商業漁業部 検査官
12	Mr. Hubert Jimmy Poiret ジミー	SEYCHELLES セイシェル	19	Instructor, Seychells School of Maritime Studies 海洋技術学校 教員

② 漁業協同組合コース：平成３年７月～１２月

No	NAME 氏 名	NATIONALITY 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 職 業
1	Ms. Carmen Cecilia Silva Diaz カルメン	COLOMBIA コロンビア	40	Chief of economy development Corporacion Autonoma Regional del CAUCA-CVC カウカ県開発公社　漁業融資担当
2	Mr. Sefanaia Bilivalu セファナイア	FIJI フィジー	31	Assistant cooperative officer Ministry of Primary Industries and Cooperatives 一次産業組合省　協同組合担当事務官
3	Mr. Amadou Camara カマラ	GUINEA ギニア	37	Coordinator of all technical activities BOUSSOURA fisheries project ブソラ漁業プロジェクト　技術主任
4	Mr. Malaki K. Tenai テナイ	KENYA ケニア	30	KILIFI district cooperative officer Ministry of Cooperative Department 協同組合振興省　キリフィ地区協同組合　指導官
5	Mr. Gibson Rainiol ギブソン	PAPUA NEW GUINEA パプア・ニューギニア	32	Provincial fisheries officer for the Central Province Department of Central Province セントラルプロビンス地区　漁業行政官
6	Ms. Gloria C. Santos グロリア　(個別)	PHILIPPINES フィリピン	39	Senior aquaculturist, Fisheries development support services Bureau of Fisheries and Aquatic Resources 水産海洋資源局　上級養殖専門官
7	Mr. Bunlue Chongsiriruk バンルー	THAILAND タイ	30	Coordinator, Department of Fisheries Ministry of Agriculture and Cooperatives 農業・協同組合省　水産部　調整官
8	Mr. Edward Nsimbe-Bulega Usanda エドワード	UGANDA ウガンダ	40	Manager, Kampara ice plant and fish marketing centre カンパラ製氷・水産市場センター 主任（製氷及び水産物販売担当）
9	Mr. Musa Matthias Nyendwa ムサ	ZAMBIA ザンビア	24	Trainer, KASAKA fisheries training centre Department of Fisheries カサカ漁業訓練センター　研修指導員

③ 水産食品加工コース：平成３年１０月～平成４年３月

No.	NAME 氏 名	NATIONALITY 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 職 業
1	Miss Meinert Elza Maria エルザ	BRAZIL ブラジル	28	Nutritionist Federal University of Santa Catarina サンタ・カタリーナ連邦大学 栄養士
2	Mr. Reinaldo Rafael Rosado Viloria レイナルド	COLOMBIA コロンビア	38	Instructor National Agency of Vocational Training 国立職業訓練庁 指導員
3	Ms. Andi Ampa アンパ	INDONESIA インドネシア	30	Staff of Food Laboratory Center for Testing and Quality Control, Department of Trade 貿易省 食品品質検査研究所 食品検査室 研究員
4	Mr. Zarei Abargui Seyed Morteza モーテザ	IRAN イラン	31	Head of Food Industry Department Ministry of Jihad-E-Sazandegi 聖戦建設省 食品工業部 部長
5	Mr. Abd. Majid bin Alias マ ジ	MALAYSIA マレイシア	36	Assistant Development Officer Fisheries Development Authority of Malaysia マレイシア水産開発局 開発担当補佐官
6	Mr. Armando Alcala Tovar アルマンド	MEXICO メキシコ	28	General Director Puerto Escondidio Ecological Asociation プエルト・エスコンデデオ生態学協会 会長

④ 漁具漁法学コース：平成４年１月～３月

No.	NAME 氏 名	NATIONALITY 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 職 業
1	Mr. Antonio Lisboa Nogueira da Silva アントニオ	BRAZIL ブラジル	38	Associate Professor, Rural Federal University of Pernambuco ペルナンブコ地方連邦大学　助教授
2	Mr. Hussein El-Sayed Touliabah フセイン	EGYPT エジプト	29	Lecturer Assistant, National Institute of Oceanography and Fisheries 国立海洋漁業研究所　助講師
3	Mr. Abdulla Jaufar ジャウファー	MALDIVES モルディヴ	25	Statistical Clerk, Ministry of Fisheries and Agriculture 漁業農業省　統計担当　事務員
4	Mr. Augustine Tunde Adimula アディムラ	NIGERIA ナイジェリア	37	Senior Instructor, National Institute of Freshwater Fisheries Research 国立内水面漁業研究所　上級指導員
5	Mr. Raul Alfredo Porras Olortiga ラウル	PERU ペルー	37	Operation Specialist in the Engineer Management, National Fishing Enterprize; PESCA-Peru 漁業公社　技術主任
6	Mr. Nelson Kile ネルソン	SOLOMON ソロモン	37	Senior Fisheries Officer, Fisheries Division, Ministry of Natural Resources 天然資源省　水産局　上級漁業指揮官
7	Mr. Ezzeldeen Osman Ahmed アメッド	SUDAN スーダン	36	Fisheries Senior Inspector, Fisheries Administration スーダン漁業局　漁業調査官
8	Mr. Hechemi Missaoui ヘシェミ	TUNISIA チュニジア	36	Lecturer Assistant & Researcher, National Agronomic Institute, Ministry of Agriculture 農業省　国立農業経済研究所　助講師兼研究員
9	Mr. Baithur Sjarif シャリフ　(個別)	INDONESIA インドネシア	37	Staff of Fishing Technology Section, Fishing Technology Development Centre 漁業技術開発センター　漁業技術部　職員
10	Mr. Ralph R. Mana マ ナ　(個別)	Papua New Guinea パプア・ニューギニア	27	Research Assistant, Fisheries Section, Biology Department, University of Papua New Guinea パプア・ニューギニア大学　生物学部　漁業学科　助手
11	Mr. Moustafa Abdo Nasser Ahmed ムスタファ　(個別)	YEMEN イエメン	38	First Officer Navigation, Ministry of Fish Wealth 漁業省　一等航海士

⑤ 養殖一般コース：平成4年1月～6月

No.	NAME 氏 名	NATIONALITY 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 職 業
1	Mr. Julien Kokouvi Noumonvi ジュリアン	Benin ベナン	35	Kouande District Agricultural Extension Officer, Fisheries Department, Ministry of Rural Development 農村開発省 水産局 グアンデ地区農業漁業増進監督
2	Mr. Matias Guiherme Boll マティアス	Brazil ブラジル	30	Researcher, Agricultural Research and Extension Institute of the State of Santa Catarine (EPAGRI) サンタカタリーナ農業研究所 研究員
3	Miss Claudia Leonor Ardila Benavides クラウディア	Colombia コロンビア	28	Coordinator, Service Center to Artisanal Fisheries Corporation for Reconstruction and Development of Cauca Region カウカ地方開発公社 小規模漁業サービスセンター コーディネーター
4	Mr. Froylan Sanchez Morales フロイラン	Mexico メキシコ	34	Chief of the Laboratory of Biology and Hydrotechnology in Aquaculture, Institute of the Sea Technology 海洋技術学院教師（生物学、養殖工学実験主任）
5	Mr. Rajendra Kumar K.C. ラジェンドラ	Nepal ネパール	34	Assistant Fisheries Officer, Fisheries Development Division 水産開発局 水産補佐官
6	Mr. Jessie Gonzales Gaspar ジェシー	Philippines フィリピン	32	Aquaculturist II, Ilagan Provincial Office, Department of Agriculture 農業省イサベラ州 養殖指導者II
7	Miss Chongko Saetung チョンコー	Thailand タイ	30	Instructor I/Head of Fisheries Section, Faculty of Agriculture, Rajamangala Institute of Technology, Ministry of Education 教育省ラジャマンガラ技術学院 指導員I/水産主任
8	Mr. Gouyagouma Warawoul ワラウォル	Togo トーゴー	33	Assistant Officer in Plateau Region, Animal and Fish Operation Department 動物・水産物局 プラトー地区養魚センター 次長
9	Mr. Saghrouni Hafnaoui Zouhaier ズハエール	Tunisia チュニジア	28	Engineer in Service of Aquaculture, Commissariat General a la Peche, Ministry of Agriculture 農業省水産総局 養殖技術担当
10	Mr. Jorge Enrique Blacio Game エンリケ （個別）	Ecuador エクアドル	26	Lecturer in Escuela Superior Politecnica del Litoral (ESPOL) エスポール大学海洋学部講師／国立養殖研究センター養殖担当

⑥ 小型漁船の船体・機関保守コース：平成4年1月～6月

No.	NAME 氏 名	NATIONALITY 国 名	AGE 年令	OCCUPATION 職 業
1	Mr. Jaiteh Ebrima Faburama ジャイテ	GAMBIA ガンビア	32	Fisheries Mechanic, Fisheries Department, Ministry of Water Resources & Environment 水資源環境省 水産局 機関担当職員
2	Mr. Singh Vishnu Inderpal シ ン	GUYANA ガイアナ	33	Fleet Maintenance Superintendent, GUYANA Fisheries Limited ガイアナ漁業公社 漁船保守監督官
3	Mr. Sideso Onajife Augustine オガスティン	NAIGERIA ナイジェリア	33	Marine Engineer Assistant, Nigerian Institute for Oceanography & Marine Research ナイジェリア海洋研究所 調査船機関士
4	Mr. Loredo Paul Ricarte ポール	PERU ペルー	38	Assistant of Coastal Fishing Division, Ministry of Fisheries 漁業省 沿岸漁業局 職員
5	Mr. Osvaldo M. Deus Bastos バストス	SAO TOME and PRINCIPE サントメ・プリンシペ	25	Technician of Naval Engine, Artisanal Fishing Project, Ministry of Agriculture & Fisheries 農業水産省 機関担当職員
6	Mr. Davis Bristol Lausii デビス (欠席)	TONGA トンガ	25	Engineer Assistant, TONGA Maritime Polytechnical Institute 海洋技術訓練学校 機関担当職員

2. 平成３年度個別研修員受入れ実績

神奈川国際水産研修センター

No.	研修科目	氏名	(区分)	国籍	年令	現職	センター受入期間	備考
1	魚類栄養学	Mr. Claugia V. I. Laport	(B)	チリ	26	食品検査所 検査官	3. 4.14～3. 4.19	筑波産業技術研究 養殖参加
2	漁業技術	Mr. Mesert T. Bekele	(A)	エチオピア	33	農水資源開発部漁業開発担当	3. 4.15～3.12.13	国際機関（FAO）沿岸漁業合流
3	農林プロジェクト	Mr. Guillermo Castaneda	(A)	コロンビア	42	国家企画庁 技術協力担当官	3. 4.15～3. 4.18	個別一般／水産プロジェクト計画
4-7	センター施設見学	Mr. Shamsuddin Elias 他３名	(C)	バングラデシュ	31	漁業・畜産省 養殖研究	3. 6.13	長崎県 海面養殖コース
8	電力設備関係	Dr. Chon. Young Kap	(D)	韓国	45	電力研究所 高電圧研究員	3. 6.30～3. 9.27	C／P ミニプロ産業電力設備
9	漁業協同組合	Mr. Gloria C. Santos	(A)	フィリピン	38	農業省水産局 組合担当官	3. 7. 6～3.12.13	C／P 河替専門家 漁協合流
10	電力設備関係	Mr. Sun. Jong Ho	(D)	韓国	29	電力研究所 研究員	3. 7.30～3. 9.27	C／P ミニプロ産業電力設備
11	漁具漁法	Mr. Victor M. Farfan Agurto	(A)	ペルー	29	パイタ漁業訓練センター漁業指導	3. 8. 5～3.11.22	C／P プロ技協 沿岸漁業参加
12	漁具漁法	Mr. Clay William F. Gonzalez	(A)	ペルー	33	パイタ漁業訓練センター漁業指導	3. 8. 5～3.11.22	C／P プロ技協 沿岸漁業参加
13	冷凍機器保守	Mr. Anibal A. Bytton Tavera	(A)	ペルー	26	パイタ漁業訓練センター漁業指導	3. 8. 5～3.11.22	C／P プロ技協
14	船舶機関	Mr. Ahmed A. Sayed Youssef	(A)	エジプト	28	ヤムーク漁業公社 機関士	3. 8.12～3.11.19	C／P 門間専門家
15	回流水槽	Mr. Oudaoud Ahmed	(B)	モロッコ	44	アガディル漁業訓練センター漁業指導	3. 8.22～3. 9.19	C／P プロ技協
16	漁獲物処理	Mr. Aitel Elbaoul Habibi	(B)	モロッコ	34	アガディル漁業訓練センター漁業指導	3. 8.22～3. 9.19	C／P プロ技協
17	船舶機関	Mr. Javier P. Chiroque	(A)	ペルー	34	パイタ漁業訓練センター機関指導	3. 9.23～3.12.17	C／P プロ技協
18-20	センター施設見学	Mr. Alfred Sasako 他２名	(B)	ソロモン諸島	38	南太平洋フォーラム広報課長	3. 9.27	外務省中堅指導者招聘
21	水産施設	Mr. Hernado A.A. Monedero	(B)	コロンビア	48	職業訓練庁（SENA）長官	3.10. 8～3.10. 9	個別一般／準高級
22	機関保守	Mr. Fabian Lalgie	(A)	グレナダ	28	農林水産省 機関保守指導員	3.10.21～3.12.13	C／P 千賀専門家
23	水産物検査	Mr. Chin Yew Neng	(B)	シンガポール	37	第一次産業局 水産課長	3.10.27～3.12.20	個別一般／水産食品加工参加

No.	研修科目	氏名	(区分)	国籍	年令	現職	センター受入期間	備考
24	ふ化場管理	Mr. Ayob Ahmadi	(B)	マレイシア	28	ペラタン大学水産海洋科学部 講師	4. 1.13～4. 1.14	C／P 瀬尾専門家
25	漁労機械	Mr. Baithur Sjarit	(A)	インドネシア	37	漁業技術開発センター 指導講師	4. 1.13～4. 3.26	C／P 川原専門家 漁学参加
26	漁具漁法	Mr. Ralph Reeves Mana	(A)	パプア・ニューギニア	27	PNG大学理学部水産研究助手	4. 1.13～4. 3.26	C／P 松岡専門家 漁学参加
27	漁業一般	Mr. Mustafa Abdo Nasser	(A)	イエメン	38	水産資源省 一等航海士	4. 1.13～4. 3.26	個別一般／漁学参加
28	機関保守	Mr. Tavisi Bristol Lausii	(A)	トンガ	25	海洋技術研究所 機関技師	4. 1.13～4. 7.14	個別一般／機関合流
29	魚貝類養殖	Mr. Jorge E. Blacio Game	(A)	エクアドル	25	ESPOL大学 海洋学部講師	4. 1.13～4. 8.18	C／P プロ技協 養殖合流
30-31	センター施設見学	Mr. Gangaram S／O P. 他1名	(C)	マレイシア	44	漁業訓練所 企画調整官	4. 1.23	C／P 無償 B／D
32	水産資源調査	Mr. Cegir Menisogiu	(B)	トルコ	33	農業省 プロジェクトコーディネーター	4. 2.15～4. 2.20	C／P 開発調査 漁学参加
33-34	センター運営	Mr. Juan C.R. Corzo	(C)	ペルー	38	パイタ漁業訓練センター諮問委員長	4. 2.25～4. 2.26	個別一般／準高級
35	漁業振興	Mr. Abelardo M. Lazatin	(B)	フィリピン	47	人造りセンター 計画主任	4. 3.10～4. 3.19	C／P 地方生計向上計画
36	漁業振興	Mr. Juvenal H. Catajoy Jr.	(B)	フィリピン	40	人造りセンター 所長	4. 3.19	C／P 地方生計向上計画
37	センター施設見学	Ms. Beatriz Hernandez	(B)	コロンビア	45	地域振興基金バジェデカウ州支部長	4. 3.26～4. 3.27	個別一般
38-45	養殖一般	Mr. Eddy Rosa Suhegyo 他7名	(B)	インドネシア	30	水産教育研究所 他	4. 3.19	中国支部エビ増養殖導入研修

3. 地域別年度別研修員受入れ実績

92.3.31 神奈川国際水産研修センター

地域名＼年度	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	合計	普及	漁実	漁理	漁協	養殖	機関	漁技	漁学	加工
アジア	14	12	15	8	15	14	12	11	12	9	9	6	8	16	10	15	12	22	25	16	25	24	23	13	10	13	11	10	9	6	10	415	184	33	63	82	37	8	1	5	2
オセアニア												1		1	2	2	4	1	4	4	4	4	9	4	8	3	7	6	7	6	5	82	11	31	9	7	1	19	1	3	0
アフリカ		2	1	7	1	2	4	4	5	3	6	9	4	5	8	2	5	6	5	6	6	7	10	12	13	17	18	19	20	15	16	238	67	65	18	32	13	30	10	3	0
中近東・ヨーロッパ		2	2		2	1	3	3	4	3	2	1	1	2	4	2	3	4	5	9	1	2	4	4	8	6	5	8	6	6	6	109	36	15	13	11	24	5	2	3	1
ラテンアメリカ						4	3	4	3	10	9	5	5	6	3	9	10	18	11	13	15	16	15	20	14	15	13	14	14	17	17	283	62	49	35	41	62	15	11	5	3
合計	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	53	54	54	57	56	50	54	1,127	359	193	138	173	137	77	25	19	6

普及／沿岸漁具漁法普及コース
漁実／沿岸漁具漁法（実技）コース
漁理／沿岸漁具漁法（理論）コース
漁協／漁業協同組合コース
養殖／養殖一般コース
機関／小型漁船の船体・機関保守コース
漁技／沿岸漁業技術コース
漁学／漁具漁法学コース
加工／水産食品加工コース

4. コース別年度別研修員受入れ実績

（注）

コース名＼年度	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	合計
沿岸漁具漁法普及	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	21	17	20	20	20														359
沿岸漁具漁法実技																			18	18	18	18	19	18	17	17	18	16	16			193
沿岸漁具漁法理論																		15	13	14	15	8	13	11	10	8	10	11	10			138
漁業協同組合														9	10	10	9	9	9	8	10	10	12	9	10	11	9	9	10	10	9	173
養殖一般																	5	7	10	8	8	10	11	8	9	10	8	13	11	9	10	137
小型船体機関保守																						7	6	7	7	8	9	8	9	10	6	77
沿岸漁業技術																															12	25
漁具漁法学																															11	19
水産食品加工																															6	6
合計	14	16	18	15	18	21	22	22	24	25	26	22	18	30	27	30	34	51	50	48	51	53	61	53	53	54	54	57	56	50	54	1,127

（注）センターを三浦市から現在の横須賀市長井に移転（1974年4月）
国際協力事業団設立（1974年8月）

（参考）個別コース研修員受入れ実績

カテゴリー＼年度	89	90	91	合計
個別研修（合集団合流）	10(9)	24(4)	19(7)	53(20)
一日研修（合施設見学）	5	51	13	69
集団コース導入研修	8	7	8	23
プロトコール	13	3	3	19
宿泊生活管理	0	0	2	2
合計	36	85	45	166

5. 国別研修員受入れ実績

神奈川国際水産研修センター
(昭和３６年～平成３年)

アジア地域

バングラデシュ	18
ミャンマー	22
カンボディア	1
中国	4
インド	13
インドネシア	67
韓国	5
マレイシア	53
モルディヴ	8
ネパール	1
パキスタン	9
フィリピン	63
シンガポール	15
スリ・ランカ	52
タイ	82
ヴェトナム	2
合計（16ケ国）	415

中近東地域

アルジェリア	1
バハレーン	3
エジプト	6
イラク	1
イラン	29
クウェイト	1
レバノン	3
リビア	3
モロッコ	11
オマーン	3
カタール	2
シリア	6
テュニジア	10
トルコ	21
イエメン	6
合計（15ケ国）	106

アフリカ地域

ベナン	8
カメルーン	5
カーボヴェルデ	2
コモロ	11
赤道ギニア	5
エティオピア	2
ガボン	2
ガンビア	16
ガーナ	9
ギニア	5
ギニア・ビザオ	2
象牙海岸	9
ケニア	24
マダガスカル	1
マラウィ	3
モーリタニア	6
モーリシャス	3
モザンビーク	2
ナイジェリア	31
サントメ・プリンシペ	12
セネガル	8
セイシェル	4
シェラレオーネ	4
ソマリア	22
スーダン	10
タンザニア	25
トーゴ	1
ウガンダ	2
ザイール	1
ザンビア	3
合計（30ケ国）	238

ヨーロッパ地域

ポルトガル	1
ユーゴスラビア	2
合計（2ケ国）	3

中南米地域

アルゼンティン	5
アンティグア	1
バルバドス	1
ベリーズ	1
ボリビア	2
ブラジル	32
チリ	10
コロンビア	28
コスタ・リカ	3
キューバ	5
ドミニカ共和国	3
エクアドル	16
グレナダ	2
グアテマラ	2
ガイアナ	7
ハイティ	3
ホンデュラス	6
メキシコ	70
ニカラグア	5
パナマ	13
ペルー	49
セント・クリストファー	2
セント・ルシア	1
セント・ヴィンセント	4
スリナム	2
トリニダッド・トバゴ	2
ヴェネズエラ	5
ウルグアイ	3
合計（28ケ国）	283

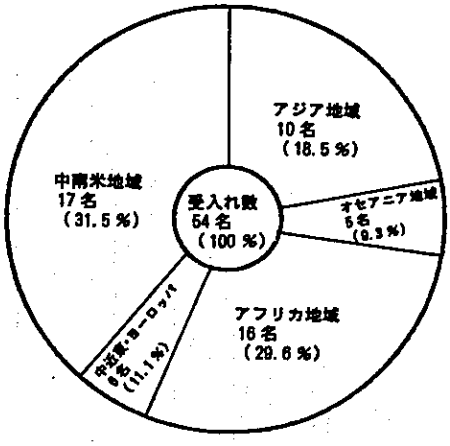
大洋州地域

フィジー	21
キリバス	5
ミクロネシア	4
パプア・ニューギニア	29
ソロモン	5
トンガ	10
ツヴァル	1
ヴァヌアツ	2
西サモア	5
合計（9ケ国）	82

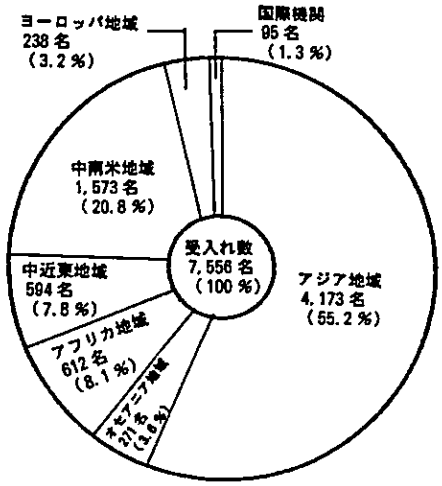
総合計（100ケ国）1,127名

6. 地域別研修員受入れ状況

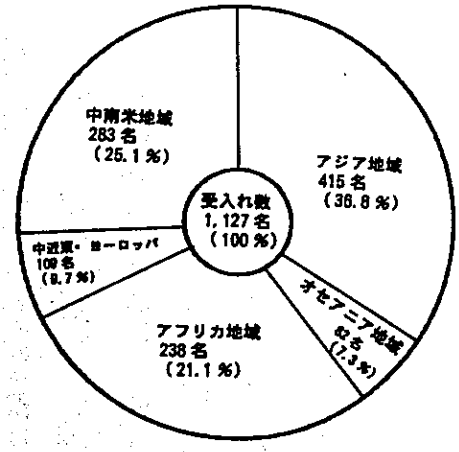
① 平成３年度（神奈川センター）



② 平成２年度（JICA全体、新規のみ）

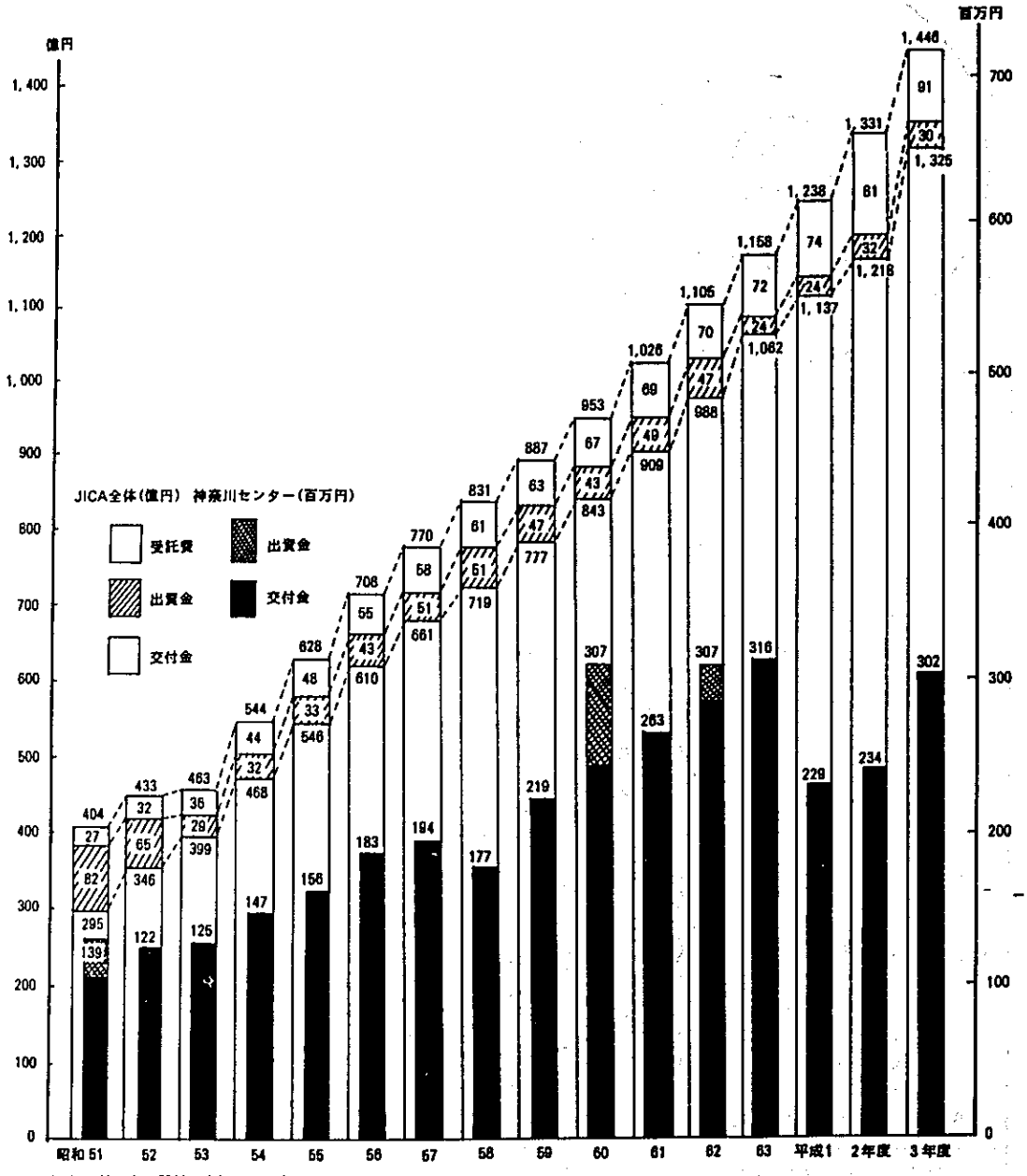


③ 昭和36年～平成３年度（神奈川センター）



参考資料

1. 国際協力事業団認可予算の推移



(注) 四捨五入の関係で内訳の計が合計に一致しないことがある。

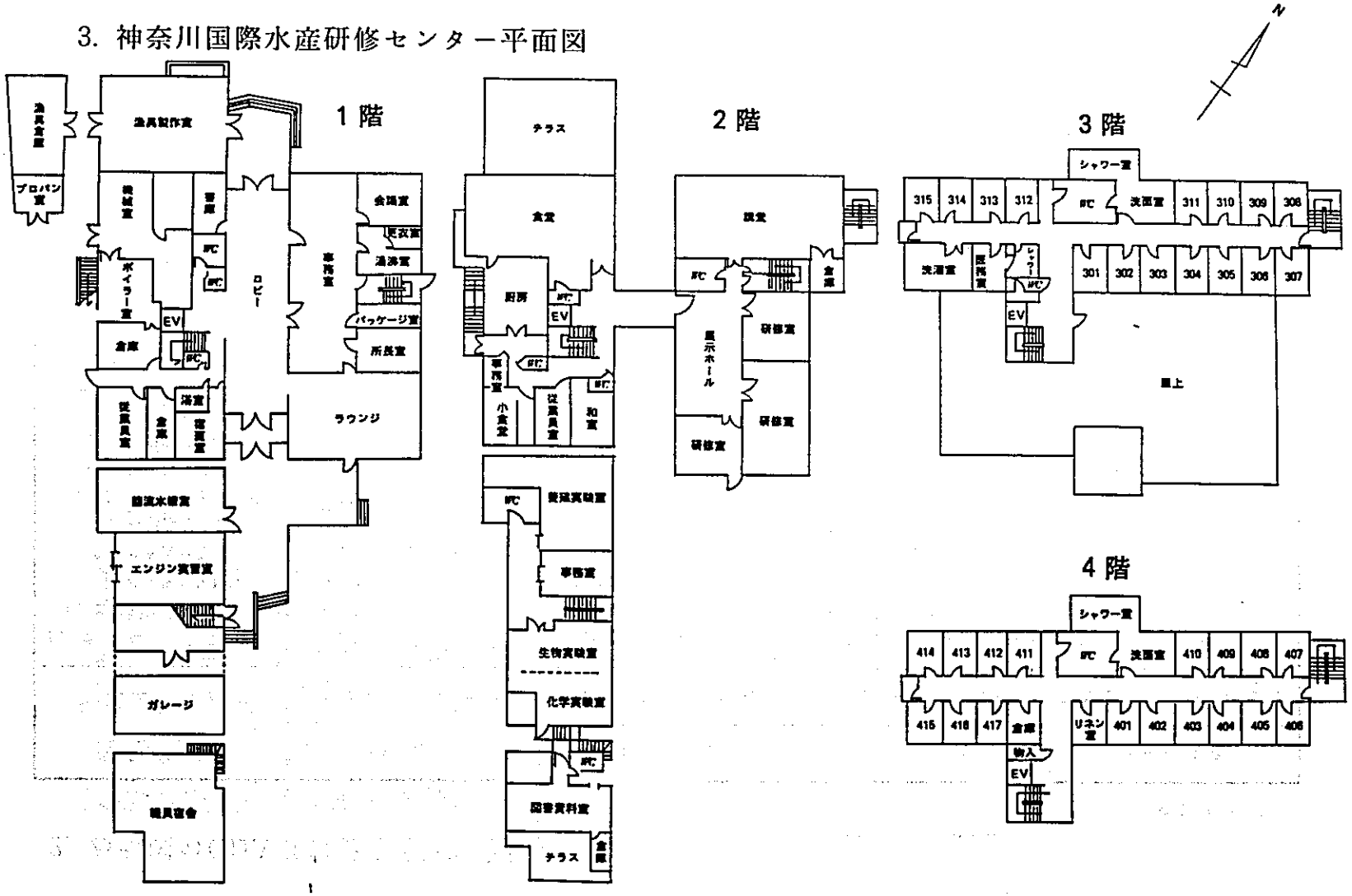
2. わが国のODA事業予算（政府全体）

（単位：億円、%）

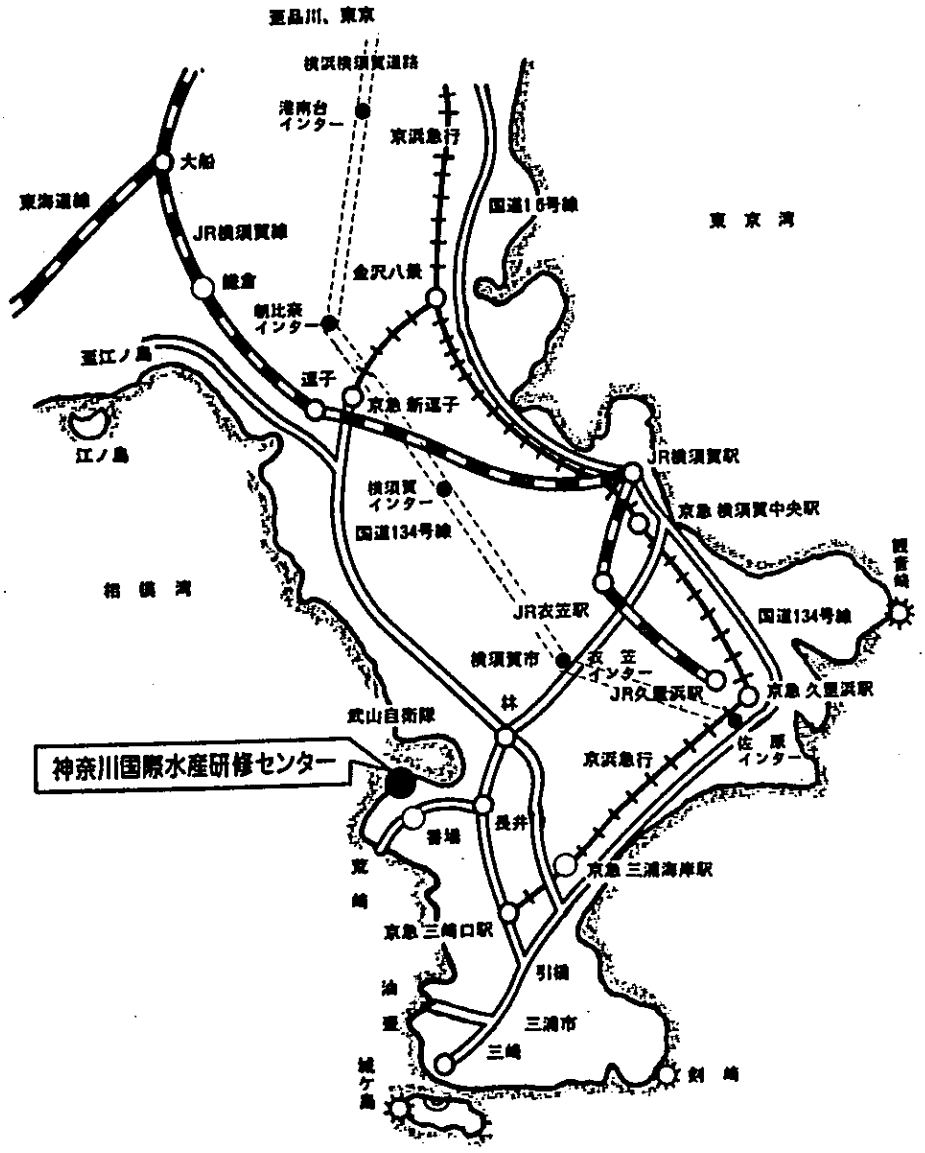
	1988年度			1989年度			1990年度			1991年度		
	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比	予算額	伸率	構成比
I. 贈与	7,109	6.9	47.4	7,107	△ 0.0	46.9	7,735	8.8	48.4	7,464	△ 3.5	44.0
1. 二国間贈与	3,937	7.7		4,261	8.2		4,467	4.8		4,837	8.3	
(1) 経済開発等援助	1,471	9.8		1,596	8.5		1,621	1.6		1,726	6.5	
(2) 食糧援助等	459	△15.7		428	△ 6.8		412	△ 3.7		425	3.1	
(3) 技術協力	2,007	13.3		2,237	11.5		2,434	8.8		2,686	10.4	
2. 国際機関への出資・拠出	3,172	6.0		2,846	△10.3		3,269	14.8		2,627	△19.6	
(1) 国連等諸機関	504	△ 5.8		524	4.1		558	6.3		591	6.0	
(2) 国際開発金融機関	2,668	8.6		2,322	△13.0		2,711	16.8		2,036	△24.9	
II. 借款	7,897	7.3	52.6	8,045	1.9	53.1	8,260	2.7	51.6	9,494	14.9	56.0
(1) 海外経済協力基金	7,347	7.8		7,530	2.5		7,781	3.3		9,087	16.8	
(2) 日本輸出入銀行	20	0.0		20	0.0		20	0.0		30	50.0	
(3) その他	529	1.9		496	△ 6.4		459	△ 7.3		377	△18.0	
III. 小計（事業規模）	15,006	7.2	100.0	15,153	1.0	100.0	15,995	5.6	100.0	16,957	6.0	100.0
IV. 回収金	△ 1,519			△ 1,455			△ 1,502			△ 1,662		
合計	13,487	8.8		13,698	1.6		14,494	5.8		15,295	5.5	

（注）四捨五入の関係上合計に不一致あり。

3. 神奈川国際水産研修センター平面図



4. 神奈川国際水産研修センター案内図



京浜急行　三崎口駅（終点）下車

タクシーにて 10 分 長井魚市場 隣り	バス荒崎行 香　場 下　車

JICA